

令和3年度市政懇談会 会議録（要旨）

テーマ：地域が抱える問題について

【日 時】 令和3年6月24日（木） 18時30分 ～ 20時00分
【場 所】 黒石ふれあいセンター
【出席者】 ○篠崎市長 ○地区代表者（6人） 黒石地区自治会連合会会長 : 有部 正治 黒石地区コミュニティ推進協議会会長 : 山下 則芳 黒石地区社会福祉協議会会長 : 伊藤 勝 黒石地区地域活動連絡協議会会長 : 百衣 万里子 黒石地区子ども委員会会長 : 島崎 誠 中野開作自治会会長 : 国吉 清人 ○政策広報室長 ○総合戦略局 ○政策調整課 ○事務局（広報広聴課）
【概 要】 1 開会 2 参加者自己紹介 3 市長あいさつ 4 意見交換・懇談 5 閉会
【意見交換・懇談】
○子育て支援施設及び公園の設置について 【地域活動連絡協議会会長】 ・黒石ふれあいセンターで、未就園児親子の集いの広場を主催している。利用者が増え、定員オーバーで断ることもあり、もっと広い場所がほしい。 ・黒石地区の中心部に子どもが遊べる公園がほしい。 【市長】 ・黒石地区では子育て世帯が増えており、このエリアに子育てのための拠点が必要と考えている。現在、厚南地区、原地区を含めて検討しており、適地があれば教えてほしい。 ・黒石地区の規模からすると現在の規模は小さいので、地区の皆さんと相談しながら、大規模での設置を検討したい。 ・公園の設置については、現在、山口宇部空港の芝生広場に大型遊具を設置する予定である。

- ・厚南体育広場は、現在、体育協会が管理しているが、地域住民が自由に利用できる日がほしいとの要望もあり、学校が早く終わる日などを含め、地域に開放する日をつくろうと考えている。

- ・この地区で公園が設置できる土地を探している。適地があれば検討したい。

【自治会会長】

- ・公園の話であるが、自分の自治会内で空いた土地（田）がいくつかある。現在、この土地の中で、公園として活用できるものがないか探している。ある業者に、土地（田）が見つかった場合、埋めるための残土を分けてもらえないかと尋ねたところ、大丈夫との回答を得た。活用できる土地が見つかった場合は、市に話をもちかけたい。その際は残土処理等の資金面での援助についても相談したい。

【市長】

- ・黒石地区は人気のある地区で、土地があれば宅地として売りたいという地主さんの思いもある。
- ・残土については法的に難しい面もあるが、公園をつくるための予算については検討している。

○道路の信号及び白線表示について

【自治会会長】

- ・アルク厚南店の信号を時差式にしてほしいと要望しているが、検討中から進んでいない。
- ・アルク厚南店前の横断歩道、白線2本ではなく正式な横断歩道にしてほしいと要望しているが、こちらも検討中から進んでいない。
- ・中野開作には狭い道路が多いので、離合場所を作ってほしい。道路整備課には依頼している。

【市長】

- ・宇部警察署に照会したところ、時差式にすることで更なる渋滞が予測されるため、時差式への変更は困難との回答だった。
- ・アルク厚南店前の白線について、横断歩道としての設置基準を満たしていないので、現在のところ設置は困難との回答だったが、通学路の安全確保の観点から、市で何かできないか検討したい。
- ・道路表示、停止線が消えている件について、県予算が減っており難しい面もあるが、必要な箇所には県へ要望、市道については危険箇所から優先して線を引いていきたい。
- ・離合場所については、検討していきたい。

○地域の活性化による行政負担の軽減について

【子ども委員会会長】

- ・これまで、地域は、行政から多くの依頼を受けてきたが、実際に活動しているのは、

ごく一部の地域住民である。

- ・一部の住民だけの参画では、今後、地域は崩壊していく。地域の特性を踏まえ、地域課題の解決策を考える人、持続可能な地域コミュニティを形成・維持する人、将来に向けて地域の色付けをする人「コミュニティプランナー」を今後増やしていかなければならない。
- ・他市町村の事例だが、体育振興会が、地域住民の健康を作り上げていくための活動を、高い意識をもってされている。
- ・これからは「地域が地域を育てる」という仕組みをつくっていく必要がある。
- ・社会貢献の意識を皆が持てるようになるには、行政と地域住民とのこれまで以上の働きかけが必要である。地域力がアップすれば、宇部市を支える人が増える。
- ・地域づくりコーディネーターを養成する講座として、山口市に「やまぐち草奔塾」があるが、宇部市にはない。宇部市でも必要だと思う。

【市長】

- ・これから地域計画の改定作業を行う。今、山口市の団体からノウハウを各地区へ伝え、地域課題の解決に向けて動き出したところである。
- ・地域にかかわる人が減っている。地域の人々が地域活動に参加しやすい環境を市としてどのようにつくるかが課題と考えている。企業には地域活動のためのノー残業デーの協力をお願いしたいと考えている。積極的に地域活動に参加する社員がいる企業を優遇する制度などを検討している。
- ・コミュニティプランナー、NPO 法人の力も借りながら、地域課題の解決に対応できる人材育成に取り組んでいきたい。

【子ども委員会会長】

- ・全市的な、地区を超えた交流という観点も必要と思う。

【市長】

- ・その観点も大事にしていきたい。

○自治会役員の引き受け手について

【自治会連合会会長】

- ・黒石地区は実質 8 つの自治会であり、1 つの自治会に 500 世帯以上、950 世帯の自治会もある。これだけの世帯数を抱えていれば、自治会長を引き受けるのに二の足を踏んでしまう。現在、まだ世帯数も増えている。

【コミュニティ推進協議会会長】

- ・私の地区では、自治会役員の任期に関する規約を変えた。規約を変えない限り、新しい人は出てこない。

【市長】

- ・他地区では、世帯数が減ってきたので、自治会の地区の再編を市に手伝ってほしいという要望が出ている。世帯数が増えている地区は、分割または、自治会としての単位はそのままで、管理の方法のみ分割する方法が考えられる。この問題についてしっか

り検討したい。

・事情は地区それぞれであり、新陳代謝は必要と思うが、まずは地域活動に参加する人数を増やすことが必要である。

○新庁舎での執務体制等について

【社会福祉協議会会長】

- ・市役所のコロナ対策として、時差出勤や分散勤務を行っておられるが、新庁舎になったらそのような対策はなくなるのか。
- ・新庁舎になったら食堂はどうなるのか。

【市長】

- ・新庁舎ではフリーアドレスを検討している。それができれば、コロナ対策、密を避けることもできる。そのような庁舎にしていきたい。
- ・食堂については、現在建設中の1期棟ではなく、2期棟の中で検討している。2期棟は市民の皆様にも愛されるものに整備していきたい。

○メイン道路の設置について

【社会福祉協議会会長】

- ・黒石地区には狭い道路はたくさんあるが、メイン道路がない。メイン道路があれば、お祭りをはじめとした、いろいろな行事もできる。

【市長】

- ・安全、防災面からも考えていかなければいけないと思っているが、県とも連携しながら考えていきたい。

○コミュニティスクール等について

【地域活動連絡協議会会長】

- ・本年4月に、教育長から宇部市地域学校共同活動推進員の委嘱を受けた。地域内で技能を持った方を発掘し、学校に派遣していきたい。現在黒石地区で活動している中学生にも引き続き地域のボランティア活動に参加してほしい。今後は、高校生や大学生にもボランティア活動に加わってほしい。
- ・宇部市には学生が集える場所がない。

【市長】

- ・市内には多くの大学があるが、外部の方からは、学生街がない、と言われている。
- ・学生が集えるような場所ができないか、現在、山口大学、宇部高専と話をしている。
- ・コミュニティスクールの取組についても、教育長と相談しながら、引き続き考えていきたい。

○地域活動への市職員の参加について

【社会福祉協議会会長】

- ・地域活動に市役所職員があまり参加していない。昔は地域のリーダーは市役所の人であり、そのことで地域が上手くいっていた。

【市長】

- ・プライベートな部分への指示は難しいが、職員と意見交換をしながら考えていきたい。

○広報うべ等について

【社会福祉協議会会長】

- ・ごみステーションの設置及び草刈りについては、市に迅速な対応をしていただき、感謝している。
- ・広報うべについて、紙では不要という人もいる。いずれ電子化されてペーパーレスになるのか。紙であれば、各戸配布するのに仕分ける人も必要になる。

【市長】

- ・地域の支援については、引き続き伴走型で取り組んでいきたい。

【市長】

- ・様々のご提言に感謝したい。
- ・市職員とともに、地域に寄り添い、伴走しながら問題解決に向けて動いてく。
- ・今後、定期的にこのような会を開催し、意見交換を行っていきたいので、引き続きご協力をお願いしたい。